

# THE RECORD

RIAJ 社団法人 日本レコード協会

平成7年9月1日発行

RECORDING INDUSTRY ASSOCIATION OF JAPAN 〒104 東京都中央区築地2-8-9 Tel (3541)4411(代)

平成7年9月号 No. 430

## 大型化続くCDレンタル業界の実態

全店調査

レコード協会では、全国のCDレンタル店の実態を把握するために、本年4月～6月の間、当協会加盟社の全国各地の支店・営業所の協力を得て、CDレンタル店全店に対する訪店調査を行いました。

本稿ではこの調査結果と日常の調査活動によって収集した情報・資料を基に今日のCDレンタル店の実態に触れ、CDレンタル業の動向を探ってみました。

### 1 CDレンタル店数の減少続く

CDレンタル店数は、一九八九年末にそのピークを迎え、全国で六、二一三店にまで急増しましたが、この後毎月店舗数が減少し、本年6月末には四、五一六店とピーク時から約一、七〇〇店（27%）減少しました。（図1参照）

店舗数が減少した当初から約3年間は毎月40店近く減少していましたが、最近一年間の減少のスピードは、毎月約15店の減少になっています。但し、最近一年間のCDレンタル店の廃業や新規開業の状況を見ると、

閉店・廃業店は六四七店、新規開業店は四六六店有り、あわせて年間に一、一〇〇店舗以上が入れ替わっており、CDレンタル店の実態は大きく変貌しています。

### 2 変化続ける兼業の実態

相次ぐ廃業、新規開業によって、変貌を続けているCDレンタル業界は、その兼業の状況も年々変化させています。

CDレンタルとビデオレンタルを兼業している店舗は、昨年4月～6月の調査では、CDレンタル店の91%でしたが、本年は93%に増加しています。このため、CDレンタル専業店は、全国で二八〇店（前年比71%）に減少しています。

書籍販売業の参入も続いておりCDレンタル店全体の29%（一、二二三店）が書籍販売を兼業、前年より約2%そのシェアを増やし、今後増加の傾向にあります。

ファミコンソフト販売の兼業店は、全体の21%（九〇八店）で今後も微増傾向にあります。

### 3 年々大型化する店舗

また、一昨年10月に一部レンタル解禁になったLDをレンタル用に在庫している店舗は二二九店（前年は二二七店）と全体の5%のシェアで横這いでした。

CDレンタル店のレンタル用CDの在庫総量は、CDアルバムが二、三七四万枚（前年比1%減）、CDシングルが一、八七八万枚（前年比

図1 全国レコードレンタル店数の推移（1980～95年）

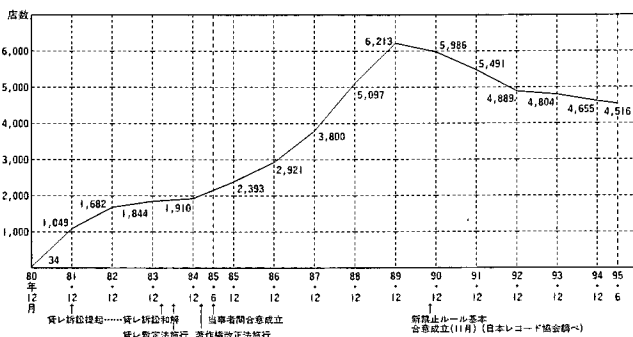


表1 一店舗当たりの単純平均在庫数

	CDアルバム	対前年比	CDシングル	対前年比
北海道	5,605枚	121.2%	3,556枚	121.0%
東北	5,714	109.0	4,201	126.4
北関東	5,536	104.5	4,651	116.8
東関東	4,824	101.3	3,538	118.7
南関東	5,261	97.2	4,285	109.5
中部	5,839	99.2	4,540	114.2
近畿	5,627	103.5	4,633	136.3
中国	5,564	102.9	4,143	114.2
九州	5,674	101.6	4,680	113.6
全国	5,536	103.3	4,379	116.0

11%増)となっており、CDシングルが大幅増となりました。これを一店舗当たりの在庫数で見ると、CDアルバムが五、五三六枚(前年比3%増)、CDシングルが四、三七九枚(前年比16%増)となっており、CDシングルの増加が目まぐるしく見えます。(表1参照)

ビデオレンタル兼売店のビデオテープの平均在庫数は、九、一七五本(前年比9%増)へ増加しています。CD在庫規模別に店舗の分布状況をみると、CDアルバムとCDシングル合わせた在庫数が四千枚未満

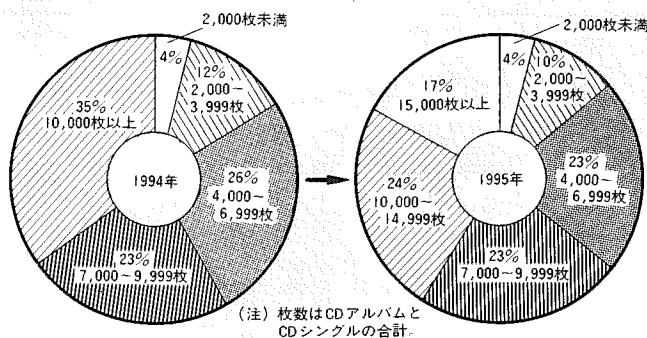


図2 レンタル店のCD在庫規模別の店舗分布状況

の小規模店が昨年の16%から14%にシェアを落とす一方、一万枚以上在庫している大規模店が35%から41%へ増加し、特にその中の七三七店は一萬五千枚以上在庫している大型店となっており、年々店舗が大型化している実態が浮き彫りされています。(図2参照)

また、売場面積で店舗の規模を見

てみると、一店舗当たりの総店舗面積(他の売場を含む)は二八二㎡となり昨年より15%拡大、CDレンタルコーナー面積は14%拡大し六〇㎡へ、ビデオレンタルコーナー面積は25%拡大し一四五㎡となり、この調査結果も毎年益々店舗が大型化している実態を如実に示しています。(表2参照)

CDレンタル業界は、邦盤については、昨年10月1日から最終ステップである第3ステップに移行し、新譜邦盤アルバムは発売後最長三週間レンタル禁止となっており、また、洋盤新譜レコードについては、発売後一年間レンタル禁止が継続される中、洋盤レンタルの使用料交渉が本年5月に纏まり、漸くCDレンタルのルール作りの最終段階に到達したと言える状況にあります。

そしてCDレンタル業界は、消費

4 CDレンタル業界の課題

が伸び悩む厳しい経済情勢が続く中、CDレンタル店数は僅かの減減傾向が続くに止まり、不況の影響は比較的少ない業界とみられてきました。

しかし、昨今の急速な技術進歩に伴う新しいパッケージメディアの台頭やノンパッケージメディアの進出更に、CDレンタルユーザーの中心

層である中学・高校生世代の人口減少やユーザーニーズの多様化等、今後の業界を取り巻く環境は更に厳しくなっていく方向へ大きく変化し続けている状況にあります。

このような難しい社会環境の中、音楽文化を支えている音楽産業が発展していく為には、販売業界とレンタル業界が夫々の業界ルールを厳格に守り、音楽文化発展のために最大限の努力をしていくことが今、求められています。

表2 レンタル店の店舗面積

単位: ㎡

	店舗全体の平均面積(他の売場含む)	CDレンタルコーナーの平均面積	ビデオレンタルコーナーの平均面積
北海道	286.9 ㎡	65.0 ㎡	170.4 ㎡
東北	311.2	66.4	168.8
北関東	309.9	61.8	149.2
東関東	178.0	44.5	114.3
南関東	254.0	65.4	143.0
中部	323.1	67.6	171.4
近畿	260.8	57.7	133.9
中国	283.6	60.6	151.2
九州	282.9	58.4	136.9
全国	281.8(115)	60.2(114)	145.1(125)
'94全国	244.2(106)	53.0(100)	116.4(103)

( ) 内は、対前年比。

以上

## 再販問題検討小委員会中間報告に関する 意見書を提出

当協会では、7月25日に公表された公正取引委員会再販問題検討小委員会の「再販適用除外が認められる著作物の取扱いについて」(中間報告)、公正取引委員会事務局の「レコード盤、音楽テープ及び音楽用CDの流通実態等に関する調査報告書」を受けて、再販プロジェクト(座長乙管理事)を中心に検討を重ねた結果、レコードの再販制度存続を要望する意見書を取りまとめ、9月1日に公取委へ提出しました。

意見書は、はじめに、今回の著作物の再販制度の見直しが検討項目として挙げられていた平成7年3月の政府の規制緩和推進計画の目標と今回の中間報告との整合性に関する検証。2番目に、著作物に係る再販制度見直し全般の背景と視点に対する意見、最後に、著作物に係る現行の再販制度の下での具体的な問題点の指摘に対する具体的な反論の3つの骨子で構成しています。

まず、規制緩和推進計画で明示されている目標は、再販制度の下、レコード業界は既に十分にその目的を達成しており、むしろ、制度の撤廃が計画の目標に逆行することを指摘しています。例えば、日本のレコー

ドは、再販制度の下、米国の3倍にもなる世界最大の音楽作品の種類を有しており、消費者の多様なニーズに対応し、消費者利益を守っていること。また、その市場は全く世界に開かれており、資本面、流通面共に外資が自由に参入し活発な事業活動を展開していること。米国レコード協会も、むしろ今回のような公取委の動きに対し慎重なる対応を要請していること等、具体的な例を挙げて指摘しています。

また、流通市場での価格競争の促進は、市場開放性の拡大と消費者利益をもたらすから、再販制度を正当化することは通常困難であるとの見解に対し、量、品質、性能、価格などの「優劣」を客観的に測れる価値基準を持たない著作物を他の一般商品と同列に扱い、競争政策を消費者利益のための万能の尺度とすることは誤りであると指摘しています。

さらに、併せて、価格面、流通面、市場の実態、制作の実態等について実情を説明し、中間報告に対して具体的に反論を加え、また、再販制度が今日まで十分に消費者の利益に資してきたことを強く訴える内容となっています。

## Q盤ウインターキャンペーン 概要固まる

当協会の新たな需要拡大策の一環として、昨年よりスタートしました「Q盤キャンペーン」も、昨夏、冬、今夏と回を重ね、ユーザーへの認知も深まってまいりました。また、今夏のキャンペーンで行われた販売店へのアンケートでも、キャンペーンの継続を希望する声は8割を越えました。

当協会では、これまでのキャンペーンの成果を踏まえ、今冬も「Q盤プロジェクト」並びに「需要拡大委員会」を中心として、年末の需要拡大期に向けた「Q盤ウインターキャンペーン」を行います。

キャンペーンによる、より効果的かつ更なる需要拡大を図るため、検討が重ねられてまいりましたが、その概要が固まりましたので、お知らせします。

### Q盤ウインターキャンペーンの概要

#### 1、実施時期 12月上旬。

#### 2、対象商品

Q盤全タイトル(既発約一、八〇

〇タイトルと新譜商品約二五〇タイトルの計二、〇五〇タイトル)。

チラシの作成、配布  
各社推薦のQ盤約四〇〇タイトルの紹介します。

4、Q盤大辞典の作成、配布  
昨冬までの既発タイトルに加え、この1年間の新譜分約六五〇タイトルを追加して新たに作成します。

#### 5、宣伝広告

朝日新聞朝刊(東京・大阪) 全十  
五段・12月上旬掲載  
朝日新聞夕刊(東京・大阪) 全五  
段・12月上旬掲載

北海道新聞朝刊(北海道)  
河北新報朝刊(東北)  
東京新聞朝刊(東京)  
中日新聞朝刊(中部)  
中国新聞朝刊(中国)  
西日本新聞朝刊(九州)

なお、今冬も、ユーザー・プレゼントとして、『Q盤大辞典』をお客様約一万名に有償にて提供する予定です。



日本レコード協会ヒットチャートデータによるランキング

平成7年7月度(6月21日~7月20日)のヒットチャートデータがまとまりました。これによる各ランクの5位までは次のとおりです。

順位	タイトル	アーティスト	発売元
<b>■邦楽・洋楽合同シングル 5位</b>			
1.	love me, I love you	B'z	(BM)
2.	GOING GOING HOME	H. Jungle With t	(AV)
3.	あなただけを	Southern All Stars	(V)
4.	TOMORROW	岡本真夜	(TJC)
5.	未来のために	DEEN	(BG)
<b>■洋楽シングル 5位</b>			
1.	カラー・オブ・ザ・ウィンド	ヴァネッサ・ウィリアムス	(PC)
2.	バスケット・ケース	グリーン・デイ	(WJ)
3.	ノット・イナフ	ヴァン・ヘイレン	(WJ)
4.	いい子になれなくて	tuesday girls	(MME)
5.	ラヴ・ユー・ライク・ザット	オール・フォー・ワン	(EW)
<b>■邦楽・洋楽合同アルバム 5位</b>			
1.	trf hyper mix 4	trf	(AV)
2.	Code Name.1 Brother Sun	CHAGE & ASKA	(PC)
3.	HAPPY	Southern All Stars	(V)
4.	SINGLES	氷室京介	(TO)
5.	denim-ed soul 2	EAST END×YURI	(SME)
<b>■クラシックアルバム 5位</b>			
1.	アダージョ：カラヤン	ヘルベルト・フォン ・カラヤン指揮/ウィーンP.O	(PO)
2.	朝のうた	古澤 巖	(SME)
3.	ザ・コラボレーション!!	バヴァロシティ/ ブライアン・アダムス他	(PO)
4.	ホルスト：組曲(惑星)	ガーディナー指揮/ フィルハーモニア管弦楽団	(PO)
5.	バロックの花束 ~バッヘルベルのカノン	フルチェフ/ ヴィルトウオージ・ディ・ブラハ	(K)
<b>■洋楽アルバム 5位</b>			
1.	MEGA HITS~Groove	エイス オブ ベイス 他	(BV)
2.	NOW EX	シャンプー 他	(TO)
3.	マグナム・オーバス	イングヴェイ・マルムスティーン	(PC)
4.	MEGA HITS~Ballads	ビッグ・マウンテン 他	(BV)
5.	タフター・ザン・ラヴ	ダイアナ・キング	(SME)

※日本コロムビア(C)/ビクターエンタテインメント(V)/キングレコード(K)/テイテク(TE)/ポリドール(PO)/東芝EMI(TO)/日本クラウン(CR)/徳間ジャパン(TJC)/ソニー・ミュージックエンターテインメント(SME)/日本フォノグラム(PH)/ポニーキャニオン(PC)/ワーナーミュージック・ジャパン(WJ)/アポロン(AP)/フォーライフレコード(FL)/バップ(VAP)/トラスレコード(TA)/ポリスター(PS)/アルファレコード(AL)/キティエンタープライズ(KT)/ファンハウス(FUN)/イーストウエスト・ジャパン(EW)/BMGビクター(BV)/NECアベニュー(NA)/WEAミュージック(WEA)/メルダック(ME)/ハミングバー(HB)/TDKコア(TDK)/メディアレモラス(MR)/AXE(AAX)/トイズ・ファクトリー・レコード(TF)/パンダイ(BC)/パイオニアLDC(PI)/MCAビクター(MV)/ロッキットレコード(RO)/エイベックス・ティーン・ティーン(AV)/ピージ(BJ)/ヴァインレコード(ZA)/BMGグループ(BM)/ビーグラム(BG)/ワン・アップ・ミュージック(EP)

7月度「ゴールド・アルバム」他認定作品

7月度のゴールド・アルバム他が次のとおり認定されました。

■アルバム(29作品)

- トリプル・プラチナ  
M COLLECTION 風をさかしてる / 福山雅治 (BV)
- ミリオン  
ゆずれない夏/TUBE (SME)  
trf hyper mix 4/trf (AV)
- ダブル・プラチナ  
Code Name. 1 Brother Sun / CHAGE & ASKA (PC)  
GUITARHYTHM FOREVER VOL. 1 / 布袋寅泰 (TO)  
ヒストリー バスト、プレゼント、アンド・フューチャー・ブック1 / マイケル・ジャクソン (SME)  
NOW EX / シャンプー 他 (TO)

●プラチナ

- SINGLES / 氷室京介 (TO)
- HAPPY / サザンオールスターズ (V)
- COOL / SMAP (V)
- She loves you / 渡辺美里 (SME)
- THE BOOM / THE BOOM (SME)
- タフター・ザン・ラヴ / ダイアナ・キング (SME)
- JUMP / ボーイズ・II・メン他 (MME)

●ゴールド

- SMAP 007 Gold Singer / SMAP (V)
- FOREVER ROAD / 吉川晃司 (TO)
- この夜はどこかで / 矢沢永吉 (TO)
- MUSICa-holic / To Be Continued (SME)
- マクロス 7 MUSIC SELECTION GALAXY NETWORK CHART / オムニバス (V)
- SUN & MOON / 岡本真夜 (TJC)
- マクロス 7 Let's Fire!! / Fire Bomber (V)
- MEGA HITS~Groove / エイス・オブ・ベイス 他 (BV)
- マグナム・オーバス / イングヴェイ・マルムスティーン (PC)
- MEGA HITS~Ballads / ビッグ・マウンテン 他 (BV)
- 東京ディズニースランドエレクトリカルパレード (PC)
- ドゥーキー / グリーン・デイ (WJ)
- PASSION AND WARFARE / スティーヴ・ヴァイ (SME)
- パッド・ボーイズ / インナー・サークル (EW)
- ヴェリー・ベスト・オブ・イーグルス / イーグルス (WJ)

■シングル(25作品)

- クワッドラブル・プラチナ  
奇跡の地球 / 桑田 佳祐 & Mr. Children (V/TF)
- トリプル・プラチナ  
TOMORROW / 岡本真夜 (TJC)  
ねがい / B'z (BM)
- KNOCKIN' ON YOUR DOOR / L←R (PC)
- ミリオン  
love me, I love you / B'z (BM)  
ロビンソン / スピッツ (PO)
- ダブル・プラチナ  
旅人のうた / 中島みゆき (PC)  
ズルい女 / シャ乱Q (BV)  
あなただけを / サザンオールスターズ (V)  
シングルベッド / シャ乱Q (BV)  
GOING GOING HOME / H Jungle with t (AV)
- プラチナ  
涙がキラリ☆ / スピッツ (PO)  
Man & Woman / MY LITTLE LOVER (TF)  
未来のために / DEEN (BG)  
君がいたから / FIELD OF VIEW (ZA)  
煌めく瞬間に捕らわれて / MANISH (ZA)
- ゴールド  
あの夏を探して / TUBE (SME)  
Over Drive / JUDY AND MARY (SME)  
Ruby / 今井美樹 (FL)  
JUST COMMUNICATION / TWO-MIX (K)  
Us ~ 空と大地の間で ~ / 田村直美 (PO)  
ハートを磨くっきゃない / TOKIO (SME)  
もっとうまく好きと言えたなら / 森口博子 (K)  
CANDY GIRL / hitomi (AV)  
ぜったいに誰も / ZYYG (BG)

## 世界の話 題

### ■高まる徴収団体の重要性

世界各国に、著作権等の集中管理システムがあり、特に音楽著作権の管理は広く普及していますが、急速な技術革新(ケーブル、衛星、レンタル、コンピュータ)に伴う音楽利用の増大により、徴収団体は、レコード産業にとって今までになく重要性を増しています。その主な目的は、①権利者の効率的且つ安価な権利執行及び管理、②ユーザーが著作物にアクセスできる迅速なサービスの提供、の2つです。

レコード産業にとって権利の集中管理の重要性が増大していることは、オランダ、スイス、ベルギー、ポーランドで、新しい徴収団体がこの1年以内で設立されたり、設立準備中であることから分かります。

アメリカでは、長い間認められなかったレコード演奏権が確立されようとしています。6月29日、上院司法委員会は、満場一致で1995年レコードのデジタル演奏権が採択されました。極端に限定された範囲ですが、法案が成立すれば、「デジタル・オーディオ送信手段で公に著作物を公演する」ことに対して、レコード著作権者の排他的な権利が確立します。一般の権利の多くは、この権利の対象外とされ、例えば、放送等の非双方向送信は、法定許諾の対象になります。「双方向サービス」とは、リスナーがリクエストし、

特定のレコードを受信できることを意味します。)

徴収団体の設立は予測されていますが、レコード著作権者の使用料交渉権の範囲、及び、法定許諾の対象の演奏料の分配については、委任されていません。また、法案は、交渉のための代理人を非排他的なベースで任命することを許可します。

双方向サービスの公演を許諾する排他的権利の執行に関しても、法案は、「各々の著作権者が、独自の料率と許諾条件を決めている限り」著作権者が代理人を指定し、その代理人に使用許諾、使用料の受領、及び軽減する資格を与えることを認めています。

デジタル公演権法案は、この夏、上院本会議を通過する見込みです。また、クリントン政権がこの法案の支持を表明していることもあり、公用の法案が下院でも採択され、法律として成立すると思われる。

マルチメディアと情報スーパーハイウェイの発展は、必然的にレコード産業に、演奏権を含めた知的財産権の利用に大きな商業的重要性を与える結果となりました。IFPIは、レコード会社の貴重な演奏権を効率的に管理し、保護するための、レコード業界独自の徴収団体の設立を促していきます。

### ■欧州委員会グリーンペーパー

「情報社会における著作権と著作隣接権に関するグリーン・ペー

パー」の第2案が欧州委員会で検討されています。

「同グリーン・ペーパー」は、著作権に関わる全産業に対して、より一層の調和を進め、適用される法律の決定のための基準を設定し、マルチメディア著作物とデータベースの間の考えられる相互関係に言及し、権利の管理と技術的コントロールの考えられる方法を提案しながら、情報社会の内外の局面、現行EC法制の適合化かとダイナミックな分析の必要性について極めて重要な問題に言及しています。

正式に採用されるペーパー作成のため、委員会の関係者との協議、関係団体への質問、公聴会等の大変な作業が行われます。

これらの作業の過程は、レコード産業にとって極めて重要な問題です。現段階で、IFPIは、情報社会においてレコード産業の利益に最も重要な問題として、以下4点を挙げます。

1. レコードの公の通信のコントロール
2. パッケージ、ノン・パッケージ両方の音楽頒布をカバーする現行EC法制の明確な解釈
3. 集中許諾のための拠りどころを得る選択
4. 知的財産権の行使、執行のためのコントロール技術手段の条項と法的保護

(IFPIフォー・ザ・レコード7月)

### 会議メモ (主なもの)

(8月1日～8月31日)

8・8 JASRAC委員会  
8・9 営業部会  
8・9 著作権部会

8・10 レコード制作基準倫理委員会  
8・10 Q盤プロジェクト  
8・10 日本GD大賞審査部会  
8・21 Q盤プロジェクト  
8・22 需要拡大委員会  
8・23 業務委員会

8・23 情報システム部会  
8・24 洋楽宣伝専門部会  
8・25 ビデオプロジェクト  
8・29 ビデオ部会  
8・31 洋楽企画専門部会  
8・31 日本GD大賞幹事会

1995年 7月レコード生産実績

数量：千枚・巻  
単位  
金額：百万円

表1. オーディオディスク

	7月 実績						1995年(1月~7月) 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
C	邦洋計	14,606	42	122	8,878	21	115	92,095	39	120	57,294	19	115
	邦洋計	237	1	82	65	0	38	1,855	1	117	763	0	87
D	邦洋計	14,844	43	121	8,942	21	113	93,950	40	120	58,057	20	114
	邦洋計	12,619	37	100	22,545	54	101	90,445	38	116	156,186	53	115
D	邦洋計	7,004	20	98	10,445	25	92	53,049	22	115	79,203	27	112
	邦洋計	19,623	57	99	32,991	79	98	143,494	60	115	235,389	80	114
D	邦洋計	27,225	79	111	31,423	75	105	182,539	77	118	213,481	73	115
	邦洋計	7,241	21	98	10,510	25	91	54,904	23	115	79,966	27	112
D	邦洋計	34,467	100	108	41,933	100	101	237,444	100	117	293,447	100	114
	邦洋計	38	0	211	55	0	365	172	0	186	255	0	223
D	邦洋計	5	0	51	8	0	52	119	0	74	237	0	80
	邦洋計	43	0	152	64	0	203	291	0	114	491	0	120
合計	邦洋計	27,263	79	111	31,478	75	105	182,711	77	118	213,735	73	115
	邦洋計	7,247	21	98	10,518	25	91	55,024	23	115	80,203	27	112
合計	邦洋計	34,510	100	108	41,997	100	101	237,735	100	117	293,938	100	114

表2. オーディオテープ

	7月 実績						1995年(1月~7月) 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
カセット	邦洋計	1,957	99	75	1,733	99	85	13,537	99	83	11,418	98	83
	邦洋計	19	1	71	22	1	72	162	1	75	175	2	68
カートリッジ	邦洋計	1,976	100	75	1,755	100	84	13,699	100	83	11,593	100	83
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	邦洋計	1,957	99	75	1,733	99	85	13,537	99	83	11,418	98	83
	邦洋計	19	1	71	22	1	72	162	1	75	175	2	68
合計	邦洋計	1,976	100	75	1,755	100	84	13,699	100	83	11,593	100	83

表3. 複合型CD (CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

	7月 実績						1995年(1月~7月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦洋計	5,664	100	374	1,892	100	118	23,811	100	208	11,151	98	105
邦洋計	8	0	66	7	0	44	119	0	368	172	2	328
合計	5,672	100	372	1,899	100	117	23,930	100	208	11,323	100	106

表4. ビデオレコード

	7月 実績						1995年(1月~7月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
ディスク	1,215	29	79	3,374	26	73	8,256	38	82	24,373	34	80
テープ	3,026	71	158	9,654	74	134	13,394	62	136	46,935	66	116
合計	4,242	100	123	13,028	100	110	21,650	100	108	71,308	100	101

表5. オーディオ/ビデオ/AV複合型レコード合計

	7月 実績						1995年(1月~7月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	36,486	79	105	43,752	75	100	251,434	85	115	305,531	79	113
複合型CD	5,672	12	372	1,899	3	117	23,930	8	208	11,323	3	106
ビデオ	4,242	9	123	13,028	22	110	21,650	7	108	71,308	18	101
合計	46,400	100	117	58,679	100	103	297,014	100	119	388,162	100	110

備考 1. 本年実績は、会員会社「30社」の集計である。  
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

## オーディオディスクレコードの輸出入状況

本号は、1995年上期(1～6月)のアナログディスクとCDの輸出入実績を紹介いたします。資料：大蔵省関税局「日本貿易統計」(通関実績)から。

表1 アナログディスクとCDの輸出入実績 (1995年1～6月)

	輸 出				輸 入			
	数 量 (千枚)	前年比	金 額 (百万円)	前年比	数 量 (千枚)	前年比	金 額 (百万円)	前年比
コンパクトディスク (CD)	3,039	111%	2,545	105%	32,708	140%	20,042	124%
アナログディスク	12	92	11	65	2,971	132	1,440	121
計	3,051	111	2,556	105	35,679	139	21,482	124

表2 アナログディスクとCDの地域別輸出入実績 (1995年1～6月)

金額：百万円，数量：千枚，( )内は対前年比

国 名		輸 出			輸 入		
		アナログディスク	CD	計	アナログディスク	CD	計
ア メ リ カ	金額	3 (300)	554 (85)	557 (85)	778 (134)	10,814 (123)	11,592 (123)
	数量	2 (—)	524 (73)	526 (73)	1,748 (151)	14,553 (152)	16,300 (152)
ド イ ツ	金額	—	155 (112)	155 (112)	37 (45)	2,798 (133)	2,835 (130)
	数量	—	169 (105)	169 (105)	53 (52)	4,364 (138)	4,417 (135)
イ ギ リ ス	金額	2 (67)	79 (105)	81 (104)	539 (124)	3,296 (106)	3,835 (108)
	数量	2 (50)	77 (120)	79 (116)	927 (133)	3,999 (101)	4,926 (105)
フ ラ ン ス	金額	1 (100)	120 (104)	120 (103)	4 (100)	297 (90)	302 (90)
	数量	1 (100)	108 (117)	108 (116)	5 (100)	341 (76)	346 (77)
イ タ リ ア	金額	4 (200)	26 (113)	30 (120)	21 (81)	280 (94)	300 (92)
	数量	5 (500)	38 (158)	43 (172)	54 (93)	728 (156)	781 (149)
オ ラ ン ダ	金額	—	66 (44)	66 (44)	11 (220)	590 (268)	600 (267)
	数量	—	100 (68)	100 (68)	17 (243)	746 (221)	763 (222)
スウェーデン	金額	0 (—)	6 (67)	6 (67)	2 (200)	200 (225)	201 (223)
	数量	1 (—)	5 (71)	6 (86)	3 (300)	230 (237)	233 (238)
イスラエル	金額	—	1 (—)	1 (—)	—	87 (348)	87 (348)
	数量	—	1 (—)	1 (—)	—	888 (308)	888 (308)
韓 国	金額	—	78 (105)	78 (105)	1 (100)	146 (87)	148 (88)
	数量	—	69 (69)	69 (68)	3 (150)	1,987 (79)	1,989 (78)
香 港	金額	—	895 (131)	895 (131)	—	298 (102)	298 (102)
	数量	—	1,390 (146)	1,390 (146)	—	660 (98)	660 (98)
台 湾	金額	—	204 (108)	204 (108)	—	160 (176)	160 (176)
	数量	—	303 (140)	303 (140)	—	1,696 (222)	1,696 (222)
シンガポール	金額	0 (—)	131 (78)	131 (78)	—	77 (367)	77 (367)
	数量	0 (—)	167 (108)	167 (108)	—	707 (478)	707 (478)
オーストラリア	金額	—	6 (60)	6 (60)	0 (—)	295 (219)	295 (214)
	数量	—	7 (100)	7 (100)	0 (—)	781 (252)	781 (250)
そ の 他	金額	1 (100)	226 (171)	227 (169)	47 (85)	705 (173)	752 (163)
	数量	1 (100)	81 (87)	81 (86)	161 (71)	1,030 (162)	1,192 (138)
合 計	金額	11 (65)	2,545 (105)	2,556 (105)	1,440 (121)	20,042 (124)	21,482 (124)
	数量	12 (92)	3,039 (111)	3,051 (111)	2,971 (132)	32,708 (140)	35,679 (139)

(注) 1. 輸出入実績は、委託加工品(OEM)を含む。

2. CD輸入実績のうち、レコード会社が外国契約会社から直接輸入した数量は、約25%と推定される。

3. 数量は、四捨五入により内訳と合計が一致しない場合があります。